



UNIVERSITY
OF
YAMANASHI

山梨大学附属図書館報

ISSN 1348-5458

やまなし

2017.3.1
vol.14

no. 2

contents

2

総合産業としての観光と未来
～観光政策科学特別コースのご紹介～

5

図書館利用者の声

6

学生にすすめる本

7

図書館トピックス

●「映像とダンスがいざなう…生命と原点回帰」を開催 [本館]

●『若手研究者のための「英語論文投稿」+
「論文検索と管理」セミナー2017』を開催 [医学分館]

8

●日経BP記事検索サービス中止のお知らせ

今後のイベント紹介

ほか

The Yamanashi
Bulletin of the University of Yamanashi Library

lib.yamanashi.ac.jp



総合産業としての観光と未来

～観光政策科学特別コースのご紹介～



生命環境学部 地域社会システム学科 教授
観光政策科学特別コース

タナカ アツシ
田中 敦

みなさん、観光という言葉の由来をご存じですか？この言葉は中国の古典「易経」の中の「觀国之光 利用賓于王（国の光を観る もって王に賓たるに利し）」が由来とされ、「その地方のすぐれたもの、すばらしいものを賓客に見せてもてなすこと」という意味で使われました。また、観光の定義については、例えばValene L. Smith (1989) は ①人々が自分の意志により ②通常の労働や勉強などから一時的に解放されて ③普段生活している場所とは異なる場所に移動し ④普段の生活とは異なる何かを経験する状態としています。つまり、移動を伴う自主的な広義の余暇活動と考えられていたのです。ⁱ 今ではアニメの聖地巡礼等のコンテンツツーリズムやスポーツツーリズム、アグリツーリズムなどさまざまなニューツーリズムから、MICE（国際会議、イベント等の総称）等のビジネス需要まで観光の領域はさらに多様化が進んでいます。

では、観光には実際にどのような効果があるのでしょうか？JATA（日本旅行業協会）によれば、「旅」（観光とほぼ同義で使用しています）には5つの効果・効用があるとされています。ⁱⁱ

- ① 文化の力…色々な国や地域の歴史、自然、伝統、芸能、景観、生活などについて学び楽しみつつ、それらの発掘・育成・保存・振興に寄与できる
- ② 交流の力…国際あるいは地域間における相互理解、友好の促進を通じ、安全で平和な社会の実現に貢献できる
- ③ 経済の力…旅行・観光産業の発展による雇用の拡大、地域や国の振興、貧困の削減、環境の整備・保全など、幅広い貢献ができる
- ④ 健康の力…日常からの離脱による新たな刺激や感動、遊・快・楽・癒しなどを通じ、からだやこころの活力を得、再創造へのエネルギーを充たす
- ⑤ 教育の力…旅による自然や人とのふれあいを通じ、異文化への理解、やさしさや思いやり、家族の絆を深めるなど、人間形成の機会を広げる

このように観光には幅広い多くの効用がありますが、ここ最近注目を集めるようになったのは、やはり③の経済の力への期待が顕著になってきたことが大きいでしょう。

特に転機となっているのが、訪日観光客の急増です。4年前まで年間800万人余りで頭打ちとなっていた訪日観光客数は2016年には3倍の2,400万人を超えました。また、これに伴い旅行消費額は2012年の1兆846億円から2015年には約3倍の3兆4,771億円と



なっています。政府は、さらに東京オリンピック・パラリンピックが開催される2020年には訪日外国人旅行者数4,000万人、旅行消費額8兆円を目標に掲げ、戦略的なビザの緩和、個人の住宅を宿泊事業として使用することができる「民泊」制度の創設、通訳案内士制度の改正、クルーズ関連施設の整備や航空ネットワーク拡大など、観光に関連した大胆な改革を矢継ぎ早に進めています。

観光による経済面での効果は、山梨県でも顕著です。2014年のデータですが、県内の観光消費額は3,573億円となり、雇用誘発効果は32,383人（対全県就業者数の9.5%）。観光県内GDPは1,995億円と県内総生産の7.4%を占め、県内第2位の産業となっています。iii 6次産業化が進められている中、県内の農産品の消費やワインの販売、消費などさまざまな産業への波及効果が高く、今後に向けて県内の経済を牽引する基幹産業としての大きな役割を担っているのです。

こうした観光を取り巻く環境が急速に変化していく中で、本学では2016年度から生命環境学部地域社会システム学科に「観光政策科学特別コース」が新設されました。これは「地域の中核、世界の人材」のビジョンの下、地域資源の観光への活用、地域資源の保全・保護と景観形成、観光プロモーション、観光経営、異文化コミュニケーションなどに関する知識と実践力と国際的な視野を身につけることを目的としており、観光産業、観光行政、観光まちづくり等の分野での活躍や地域のリーダーとして地方創生に寄与する人材の育成を目指しています。

以下、簡単に本コースの特色について触れます。

(1) 多様な科目構成

観光学はまだ新しい学問領域で、経営学、経済学、社会学、政策科学、統計学、地理学、文化人類学、心理学、環境学、都市計画学、など多様な既存の学問分野を使って観光という現象を分析していく、極めて学際的な性格を持っています。本コースでは地域社会学科の既存分野（法律・政治・行政、経済・経営、環境・地域計画、統計学等）をベースに、さらに観光の専門性を身につけることができるよう科目が配置されています。

(2) 観光系の企業・組織、行政との連携による実践型の授業

観光政策を学んでいく上で、産業セクターの理解を深めることは重要です。また、環境変化が激しい中で、第一線で活躍する社会人から最新のナマの情報を直接聞くことは、多くの情報を得るとともに、将来の自分のキャリアを考えていくためにも大変有益です。


2016年度は、観光系シンクタンク、富士急ハイライドの事業部長、ワインツーリズムの代表、やまなし観光推進機構の理事長など多くのゲストをお招きするとともに、学生がグループワークで練り上げた観光プロモーションプランをゲストに直接プレゼンする機会を設定。また国会で審議準備中の民泊問題についてリアルタイムで検討しディベート形式の授業を行うなど、AL(Active Learning)、PBL(Project-Based Learning)を積極的に取り入れています。

(3) フィールドワーク

学外でのフィールドワーク、文部科学省「知(地)の拠点形成事業(COC・COC+)」等の実習形式の授業科目や教員独自のプロジェクトへの参加を通じて、観光地のプロデュースに必要なさまざまな知識と確かな実践力を身に付けられるような取り組みを展開しています。例えば「勝沼のブドウ畑とワイナリー群の文化的景観」に関する調査には、多くのコースの学生が参加。また、山梨中央銀行と連携した「カタコト英語プロジェクト」を通じて外国人観光客への対応に苦勞している店舗や食事処を支援する事業にも取り組んでいます。

山梨県は、世界文化遺産である富士山やワインツーリズムをはじめ豊かな観光資源に恵まれているとともに、2027年のリニア中央新幹線の開通など今後さらに発展していく高い観光のポテンシャルを有しています。2016年度に入学した1期生15名、そして来年度以降大きな期待を胸に抱いて入学して来る新入生と共に、グローバルな視点とローカルな目線を合わせ持った、総合産業としての未来の山梨の観光を担えるよう、さまざまなチャレンジを続けていきます。今後ともご支援、ご指導をよろしくお願い致します。



- i 山口一美編著「はじめての観光魅力学」創生社(2011)  [本館2F一般書架:689]
- ii 一般社団法人日本旅行業協会「海外旅行近未来戦略を中心とした今後の旅行業のあるべき姿の実現に向けて」(2007)
- iii 山梨県「やまなし観光産業活性化計画」～日本一の観光立県を目指して～(2016年3月)

小さくて大きい医学分館

医学部 臨床教育センター 研修医

カワイ マサタカ
川井 将敬

私は山梨大学附属図書館の医学分館を主に利用しています。昔から医学分館には医学書は多いけど一般的な本が少ないなと感じていました。確かに医学部単科のキャンパスに医学関連の図書しかないことは当然かもしれません。

しかし、三国志演義を読む、イーリアスを読む、スッタニパータを読むといったことは何事にも替えがたい経験と思います。現在、私はそういった医学分館にはない本も「本館まで拡張された」医学分館から借りることで読書欲求を満たしています。

甲府キャンパスの本館にある本を送ってもらい医学分館で借りる制度があります。5冊借りることができ、貸し出し期間は3週間です。学生ときは医学分館で借りると3冊1週間という制約がもどかしく感じたものです。

Amazon.comでほしい本を調べてOPACで蔵書にあるか確認します。そのまま利用者サービス>文献複写・貸借申込みから進んで申し込むことができます。大抵2,3日後には到着の連絡があり医学分館のカウンターで受け取れます。


本館、医学分館の司書さんなど準備していただく方々の労力には頭がさがる思いですが、快適に利用させていただいています。みなさんも読みたい本があったらまずOPACを調べてみてください。恐らく思っている以上に「在庫」がありますよ。

ひとつ大変お世話になっている附属図書館に欲を言えば、卒業した身ですが本館か医学分館の図書リクエストができればやと思うこの頃です。

図書館の利用を通じて学んだこと

大学院教育学研究科 修士課程
教科教育専攻 芸術文化コース1年
アカホリ チホ
赤堀 智穂

私は、美術分野の絵画領域を専攻しています。絵を描くには、描く技術もちろん大切なことですが、一番大切なことはイメージをつくり出すために様々な物事に触れることです。学問は、すべての分野が相互に関係し合って成り立っています。ゆえに、様々な分野に触れて自分の専門を深めていくことは必要なことだと思っています。私にとって山梨大学附属図書館は、様々な分野に触れる機会を与えてくれる、無くてはならない存在です。


山梨大学附属図書館は、環境の整備が充実していると思います。そのおかげで、時間を有意義に過ごすことができます。こうして心地よく利用することができるのは、図書館職員の方々
が利用者の立場にたって考えてくださっているからだ
と思います。本棚の整理整頓がされているからこそ、指定された場所に行けば捜している本を手にとることができます。また、机の上も掃除されていることで、気持ちよく課題をしたり、調べものをしたりすることができるのです。私は、当たり前のことが当たり前ではないことを図書館の利用を通して改めて実感しました。私たち利用者も次に使う人のことを考えながら図書館を利用できれば、これまで以上に快適に過ごすことができると思います。

私たち利用者の学びを支えてくださっている図書館の職員の方々に、この場を借りて心から御礼申し上げます。

所蔵あり

『鏡の中の物理学』
- 講談社学術文庫 31 -』

朝永 振一郎著
講談社
医学分館2F開架図書(第二) 420/KAG

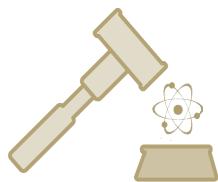


医学部 医学教育センター (生物化学)
サイトウ マサオ
齋藤 正夫 教授

この本は、現代量子論の基礎を作り上げ、ノーベル物理学賞を受賞した朝永振一郎さんが書かれた本で、特にこの本の中のエッセイ「光子の裁判」を推薦します。

光は、波でもあり粒子でもある。この一見、矛盾したような概念を、非常に簡単にエッセイ風に書かれた本です。「光子の裁判」は、ある裁判のシーンからはじまり、その被告が「波乃光子」という人物?であることがわかります。そして、裁判官と検事からの通俗的な尋問と、弁護人の奇異な返答から、最終的に、「波乃光子」の振る舞いが非常に奇妙であり、これが光(粒子と波動の二重性)の正体だとわかります。有罪か無罪かは、是非読んでご確認ください。エッセイですので、文科系の学生さんや、物理を学んでいない理系の学生さんでも簡単に理解できる内容です。


若い学生さんが、今後、固定概念や既成事実にとらわれず、新しい概念を構築する上で、大いに役立つ本だと思います。



所蔵あり

『憲法入門 - 6訂-』

樋口 陽一著
勁草書房
本館2F一般書架 323.14



工学部 電気電子工学科
オオキ マコト
大木 真 教授

私は電気電子工学を専門とする工学研究者であり、法学は全くの門外漢なのですが、偶々縁あって、この本を1993年の初版以来、改訂されるごとに読み直しています。門外漢が紹介すべき本ではないかもしれませんが、大目に見て頂ければ幸いです。

この本は、「日本国憲法を、人類社会の大きな流れのタテ糸(歴史)とヨコ糸(比較)の交差のなかに位置づけることから」叙述を始めています。「国民主権」など日本国憲法の特徴についてそれぞれ章を立てて解説していますが、いわゆる逐条解説的なものではありません。この本の特色は、近現代日本社会の現実と憲法的思惟を対峙させることによって、日本社会と日本の憲法の双方に光をあてている点にあるように思います。そのため、初版刊行以来、日本社会に大きな変化が現れるごとに内容が改訂され続けており、最新版は6訂となっています。

全体を通読してみれば著者の立場は明確ですが、個々の論点においては常に複数の対立する議論を並列して解説し、拙速な断定を下しません。その叙述の形式そのものが、読者に、読者の判断がどのような立場に立ち、その立場で首尾一貫しているのかどうかを問いかけているように思います。

所蔵あり

朝永振一郎著作

■ 『プロメテウスの火』 朝永振一郎著 江沢洋編
本館2F一般書架 539.04



■ 『スピンはめぐる』 朝永振一郎著 江沢洋注
本館2F一般書架 421.3



■ 『科学の自由な楽園』 朝永振一郎著 江沢洋編
本館2F文庫新書書架 914.6/KAG



■ 『量子力学と私』 朝永振一郎著 江沢洋編
本館2F文庫新書書架 421.3





「映像とダンスがいざなう…生命（いのち）と原点回帰」を開催



第二部 講演風景

本館では、三部構成のイベント「映像とダンスがいざなう…生命（いのち）と原点回帰」を、平成28年11月24日・25日・30日の3日間にわたり開催しました。学生、教職員、学外の研究者、地域の方など、延べ100余名の方々にご参加いただきました。

第一部の映画上映『久高オデッセイ 第三部風章』では、「神の島」とよばれる沖縄県久高島の生活と自然をテーマにした、映画監督・大重潤一郎氏による長編映像叙事詩「久高オデッセイ」を上映しました。

第二部の講演会『場所の記憶と聖地感覚』では、講師に京都大学名誉教授・上智大学グリーンケア研究所特任教授である鎌田東二氏を迎え、聖地感覚についてアニメなどを例にわかりやすく解説していただき、「こころが癒され」・「超越的な体験の起こる」聖地の諸相についてご講演いただきました。

第三部の実演と講演『自由な舞踊への回帰～ダンカン・ダンス～』では、早稲田大学文学学術院助教の柳下恵美氏を講師に迎え「モダン・ダンス」の創始者であるイザドラ・ダンカンの生涯と技法、教育観についての講演、ダンスの実演をしていただきました。



第三部 実演風景



『若手研究者のための「英語論文投稿」＋「論文検索と管理」セミナー2017』を開催



セミナー風景

平成29年1月25日（水）、医学部キャンパス臨床講義棟小講義室において、『若手研究者のための「英語論文投稿」＋「論文検索と管理」セミナー2017』を附属図書館医学分館主催で開催しました。

第1部は「論文投稿に王道なし」と題して、医学部解剖学講座構造生物学教室の小田賢幸教授に、title（タイトル）のつけ方、figure（図解）の作り方、referee（査読者）とのやりとり等、論文投稿での具体的な注意点についてご講演いただきました。

第2部は「論文執筆に役立つツールの使い方～ScienceDirectとMendeleyなど～」と題して、エルゼビア・ジャパン株式会社の高石雅人氏にご講演いただきました。

学内の基礎、臨床、看護などさまざまな分野の若手研究者、コメディカル、学生ら76名が受講し、「講師の経験に基づく話で、非常に説得力がありためになった。」「紹介されたツールを文献管理に使ってみたいと思った。」などの感想があり、有意義なセミナーとなりました。



日経BP記事検索サービス中止のお知らせ

平成26年より契約しております「日経BP記事検索サービス アカデミック版」は、平成29年3月31日をもってサービスを中止いたします。予算逼迫の折とはいえご不便をお掛けいたしますが、ご了承の程お願いいたします。

今後のイベント紹介

平成29年度山梨県・山梨大学連携事業

「子どもの読書オープンカレッジ」のご案内



子ども図書室では、山梨県と山梨大学連携事業の一環として、山梨県立図書館の共同企画により実施していた「子どもの読書活動推進スキルアップ講座」を平成29年度から「子どもの読書オープンカレッジ」と名称を変え実施する予定です。今後の詳しい日程や内容は、随時子ども図書室ホームページにも掲載いたしますので、ご参照ください。

【お申し込み・お問い合わせ】.....

山梨県立図書館サービス課 子ども読書推進担当

〒400-0024 甲府市北口二丁目8-1 TEL 055-255-1040 (代) FAX 055-255-1042

主催：山梨県立図書館・山梨大学附属図書館子ども図書室



子ども図書室

<http://www.lib.yamanashi.ac.jp/pyonpyon/>

本館の東側にあり、どなたでも利用いただけます。主に、絵本や児童書を所蔵しており、学生ボランティアが中心となって運営しています。

開室時間：月・水・土 PM1:00~PM4:00

貸出冊数：5冊 貸出期間：14日間

◆都合により臨時休室する場合があります。詳しくは、ホームページ等をご参照ください。

◆イベント詳細については、ポスター・パンフレット・山梨大学附属図書館ホームページ等でお知らせいたします。皆様のご参加をお待ちしています。

学外の方への利用案内

本館及び医学分館は、山梨大学以外の大学生をはじめ一般の方々も利用できます。詳細については、<http://lib.yamanashi.ac.jp/>をご覧ください。本館 Tel:055-220-8066 (情報サービスグループ)、医学分館 Tel:055-273-9357 (医学情報グループ)にお問い合わせください。



● 表紙：重新徴典館碑
場所：甲府キャンパス (大学職員 撮影)

山梨大学附属図書館報

「やまなし」
第14巻第2号

2017年3月1日 発行

編集：館報編集委員会

発行：山梨大学附属図書館

〒400-8510

甲府市武田四丁目4-37

TEL 055-220-8063